

# にいがた 畜産協会たより

公益社団法人  
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15  
全農にいがた第2ビル内  
TEL.025-234-6781~6783

HACCP推進農場となった鎌田養鶏(株)の直売店



盛況だった県民公開講座

## 目次

- ◆ 畜産物の力で健康増進を目的とした県民公開講座を開催 ……………(2)
- ◆ 鎌田養鶏株式会社が新潟県第1号で指定を受ける！  
～公益社団法人中央畜産会認定の農場HACCP推進農場に～ …(3)
- ◆ 馬飼養衛生管理技術講習会の開催ご案内 ……………(3)
- ◆ 家畜伝染病の発生に対する備えを強化しましょう！  
～平成26年度衛生指導課事業進捗状況～ ……………(4)
- ◆ 理事1名を新たに選任 ……………(5)
- ◆ 新潟県子牛共進会開催される！ ……………(5)
- ◆ 県内産素牛が最優秀賞を獲得！  
～第59回新潟県肥育牛求評共励会～ ……………(5)
- ◆ ふれあい畜産フェスタ 2014 に出店 ……………(6)
- ◆ 全国畜産縦断いきいきネットワーク大会に参加 …(6)
- ◆ 声のコーナー ……………(7)  
「就農5年目に向けて」  
酪農経営：新発田市 井上 智啓  
「リセットボタンの無い仕事」  
肉用牛経営：佐渡市 小崎 邦宏
- ◆ 畜産安心ブランド生産農場だより ……………(8)  
新発田市：波多野義之・隆子
- ◆ 畜産物市況 ……………(8)
- ◆ 編集後記 ……………(8)

## 畜産物の力で健康増進を目的とした県民公開講座を開催

### 県民公開講座の概要

10月7日(火)、新潟日報メディアシップ・日報ホールにおいて、県民の皆様には畜産物の役割について正しい知識と正確な情報を提供し、健康増進を図っていただくことを目的として、県民公開講座「お肉、たまご、ミルクの力で健康増進を図ろう!!」を当協会の主催、新潟県畜産振興協議会の共催で開催しました。

県民公開講座は平成23年度から4年連続で開催しており、今年は幅広い年代の一般消費者を中心に100名近くの方が参加されました。

### 講演

人間総合科学大学保健医療学部長・大学院教授、日本応用老年学会理事長の柴田博先生から「人の健康と畜産物のはたす役割」と題し、畜産物を積極的に摂取することの重要性について講演いただき、特に血清アルブミンが増加することにより、様々な疾病リスクを軽減させる効果があることを強調されていました。

#### ◇ 血清アルブミンとは？

血清中に多く存在するタンパク質の一つ。畜産物の摂取により増加し、特に高齢者の認知機能低下リスク、心臓病死亡リスクなどを軽減させる効果がある。



講演する柴田先生

### 話題提供①

当協会の中林衛生指導課長が畜産安心ブランド生産農場認定事業について説明し、認定の仕組みや認定農場の信頼性確保の取り組みなどを消費者にPRしました。

### 話題提供②

鎌田養鶏株式会社(刈羽村)の立川有佳取締役が自社で実践しているアニマルウェルフェア(動物愛護)に配慮したタマゴの生産について話題提供を行いました。

併せて、愛情たっぷりのタマゴで作ったスイーツ「たまご屋さんのカタラーナ」を参加者に試食提供し、その美味しさを堪能していただきました。



話題提供する立川氏

### アンケート調査結果

参加者を対象としたアンケート調査では、今回の県民公開講座について、全員から「参考になった」との回答があり、畜産物についての正しい知識を得る機会を提供できたものと思います。

フリー回答では、「知らない事がたくさんあり、勉強になった」、「このような機会があればまた参加したい」など、有意義であった旨の意見が多かったことから、来年度も県民の皆様の参考になる公開講座を企画したいと考えております。

**鎌田養鶏株式会社が新潟県第1号で指定を受ける！**  
～ 公益社団法人中央畜産会認定の農場HACCP推進農場に～

鎌田養鶏株式会社は当協会の認定事業である「畜産安心ブランド生産農場」のクリーンエッグ農場として平成18年に認定されました。

さらに、高度な衛生管理方式（HACCP方式）を取り入れるため、国の認証システムである「農場HACCP認証」の取得を目指し、平成25年度から取り組んできました。

今回、その前段階である「農場HACCP推進農場」として平成26年9月25日に新潟県第1号で指定されました。

農場HACCP認証制度はISO22000とHACCPを融合して作られた畜産生産農場における認証制度で、HACCPの考え方を取り入れた家畜の飼養衛生管理（農場HACCP）を推進するため、平成21年に農林水産省から「畜産現場における飼養衛生管理向上基準（農場HACCP認証基準）」が公表され、この認証制度に基づいているものです。

メリットは①一般衛生管理プログラムとHACCP計画により、健康な家畜及び安全な畜産物の確保が効率的に行われることにより、衛生管理システムが簡素化されます。②危害要因の分析・予防策の策定等、継

続的に改善を行う仕組みにより、生産性が向上します。③農場にあった教育プログラムの実施により、従事者の衛生管理意識が高まり事業運営が円滑化します。④各記録により外部からのクレームや供給先に対する信頼性の向上に寄与します。

以上のように、健康な家畜や安全な畜産物の生産確保をシステムとして取り入れるものです。

また、小規模の農場にも取り入れることができることも特徴的です。

畜産安心ブランド生産農場のみなさん、衛生システム構築のため、次のステップの認証制度として取り入れてみてはいかがでしょうか？



**馬飼養衛生管理技術講習会の開催ご案内**

当協会では毎年、馬飼養衛生管理技術の向上を目的に研修会を開催しています。

今年度は、日本中央競馬会馬事部から獣医師をお招きして開催します。奮ってのご参加をお待ちしています。

と き：平成26年11月14日（金）  
午後2時30分から4時まで  
ところ：新潟県自治会館（県庁となり）  
201会議室（本館2階）  
演題及び講師：「馬の疾病および伝染病について」  
日本中央競馬会 馬事部防疫課 南 卓人 様



あわしま牧場の道産子

**【トピックス】**

○馬関係の新規事業について

在来馬に馬伝染性貧血が発生したことから「馬インフルエンザ等防疫強化特別対策事業」をスタートしました。

本事業は在来馬の防疫の調査が主体で、先日、粟島の「あわしま牧場」に行き、調査を実施してきました。粟島東海岸に厩舎があり、NPOサービスセンターの管理で、3頭の軽種馬・中間種、8頭の在来馬（道産子）が飼養され、乗馬体験やアニマルセラピーが実施されており、飼養管理満点の環境でした。



あわしま牧場のサラブレッドなど

## 家畜伝染病の発生に対する備えを強化しましょう！

～平成26年度衛生指導課事業進捗状況～

### ○PED防疫対応

平成26年4月10日、新潟県内での発生が確認されて以降、29農場で48,651頭に発生し、12,989頭の死亡が確認されています。当協会では、3年ぶりに新潟県畜産経営安定等緊急対策事業を発動し、消費安全対策交付金（国補助）も活用し、交差汚染を防ぐことを目的に、無償で県内3食肉センターおよび新潟県化製興業に消毒薬を緊急配付しました。5月16日以降、発生はなく、沈静化農場も9月末現在27農場となり、清浄化までもう一步です。しかしながら、多くの農場がワクチンを接種しており、ウイルスが侵入していても、症状がわかりにくいことが想定されます。

引き続き侵入防止対策を徹底しましょう。



【食肉センター入場口における車両消毒槽の設置】

### ○地域における防疫演習

昨年に引き続き、今年度も県内3会場で実施します。

この事業は生産者を中心とした防疫演習で、生産者の皆さんに口蹄疫発生シミュレーションを体験してもらい、消毒液の作成方法、消毒の方法を演習し、踏み込み消毒槽、防疫衣および長靴等、初動防疫セットを配布します。電動消毒器も整備します。

今年度は11月5日長岡市の中央家畜市場を皮切りにJA新潟みらい管内、酪農にいがた阿賀野支所管内で実施します。

多くの参加をお持ちしています。

### ○家畜防疫互助基金契約状況

口蹄疫等が発生した場合に飼養家畜を処分した農場の経営再開を支援するため、生産者が造成した基金に国が助成して互助補償を行う家畜防疫互助事業は、今年度で3年目を迎え、最終年度になります。

万が一の発生に備え加入しましょう。

### 平成26年度家畜防疫互助事業契約状況

畜種	戸数	頭数
乳用牛	251 (98%)	9,017
肉用牛	242 (90%)	15,579
豚	89 (64%)	155,736

注：( )内は県内飼養戸数に対する加入率

### ○畜産安心ブランド認定事業

平成15年度に豚の認定事業を主体としたクリーンポーク認定事業がスタートし、平成17年度に全畜種に拡大した本事業も10年が経過しました。

10年前はHACCPの概念がなかなか受け入れられませんでしたでしたが、時代が流れ、安全な畜産物を生産するという観点からは必要不可欠な方法・システムに変わってきました。これからの10年後には生産現場における通常のシステムに組み入れられることになるでしょう。

今年度の日程は獣医師および家畜保健衛生所からの推薦書が11月12日までに提出され、11月中旬から12月上旬にかけて現地審査を実施します。12月18日に13名の認定委員による審査会で認定が決定します。

平成26年4月1日現在の認定は下記の通りです。

	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	計
認定戸数	63	76	57	23	20	戸 239
認定割合	27.2	59.4	47.1	59.0	87.0	% 44.0



## 理事1名を新たに選任

本年5月に開催した平成26年度定時総会において任期満了に伴う役員改選を行いました。選任された理事数が定款で定める上限数より1名少なかったことから、この度、書面による臨時総会を開催し、全会員の同意により、下記のとおり理事1名を選任しました。

なお、任期は平成26年10月3日から平成28年度定時総会までとなります。

◇ 選任された理事

青木 克明	えちご上越農業協同組合 経営管理委員会会長
-------	--------------------------

## 新潟県子牛共進会開催される！

平成26年度新潟県子牛共進会が9月26日（金）に上越家畜市場で開催され、県内8農協の14戸の生産者が合計24頭（うち雌牛9頭）の子牛を出品し、上越家畜保健衛生所の梅田所長ほか2名が審査を行いました。

当日は晴天に恵まれ、子牛市場も開催されたことから多くの生産者や関係者で賑わい、審査講評では、良好に発育し、バランスのとれた体型で資質に富んでいる出品牛が多いとのことでした。受賞者は次のとおりで、当協会からは最優秀賞（去勢）に賞状、副賞を授与しました。

### 受賞者（敬称略）

褒賞区分	性別	受賞者氏名等
最優秀賞	雌	渡辺 崇（阿賀町）
	去勢	涌井 善雄（上越市）
優秀賞1席	去勢	小見 征雄（十日町市）
優秀賞2席	雌	高橋 勝美（十日町市）

なお、引き続き開催された子牛市場では、106頭（うち雌牛43頭）が上場され、104頭が取引されました。市場成績は次のとおりで、前回6月の市場と比べて、平均価格で23千円、生体kg単価で88円下回りました。

### 市場成績

区分	取引頭数	平均体重	平均価格	生体kg単価
雌	41頭	267kg	404,000円	1,511円
去勢	63頭	283kg	505,365円	1,788円

○価格は税抜きで示した。

## 県内産素牛が最優秀賞を獲得！

～第59回新潟県肥育牛求評共励会～

全農新潟県本部主催の「第59回新潟県肥育牛求評共励会」が10月14日から16日にかけて、東京都中央卸売市場食肉市場で開催されました。

この共励会は「にいがた和牛」の市場性の確保と肉用牛の生産振興、飼養技術の研鑽を目的として毎年開催されているもので、当協会及びにいがた和牛推進協議会も後援しています。

今回、出品された黒毛和種36頭（うち雌牛10頭）のうち、枝肉格付5等級が15頭（41.7%）、4等級以上が32頭（88.9%）の高い品質であり、市場関係者からも良い評価を受けました。

本年は特に、雌の出品牛が10頭（前年5頭）と多く、最優秀賞も県内産雌牛が獲得しました。

さらに、出品牛のうち県内産素牛は20頭（56%）で前年の36%を大幅に上回りましたが、入賞牛は3頭（入賞牛の38%）のみと少なく、繁殖牛の一層の資質向上が望まれます。

当協会は、最優秀賞、優秀賞1席、2席に入賞した3名を褒賞し、また、にいがた和牛推進協議会は、最優秀賞、優秀賞1席に入賞した2名と入賞牛の県内素牛生産者（松田動物病院）を褒賞し、さらに枝肉を最高値で落札した買参人に感謝状と記念品を贈呈しました。

### 受賞者（敬称略）

褒賞区分	受賞者氏名	出品牛性別
最優秀賞	河内 松雄	雌
優秀賞1席	佐藤 忠男	去勢
優秀賞2席	小野 耕司	去勢
優秀賞3席	斎藤 善博	去勢



最優秀賞を受賞した河内氏による答辞

## ふれあい畜産フェスタ2014に出店

新潟県畜産振興協議会の主催で毎年実施されている「ふれあい畜産フェスタ」が「新潟ふるさと村」を会場として、10月18日（土）に開催されました。

当日は、天候に恵まれ、家族連れを中心に9,133人（前年比18%増：前年7,755人）が来場し、ステージショーや各団体が実施した様々なイベントに参加するとともに、販売ブースでは県産畜産物の美味しさを堪能していました。

当協会も畜産振興協議会の会員として参加し、イベント開催に協力するとともに、当協会に事務局を置く「にいがた和牛推進協議会」では専用ブースを設置して、「にいがた和牛」のPRを行い、会員卸業者である（株）タカノの協力を得て、「にいがた和牛」精肉パックの販売を行いました。

当日は、「にいがた和牛」イメージキャラクター「ニーモ」パネルを展示し、「にいがた和牛」のイメージアップを図るとともに、「にいがた和牛」精肉購入者を対象とした「ガラポン抽選会」を実施し、当選者には「にいがた和牛」調理用キッチングッズをプレゼントする等のイベントを行いました。

市価に比べて格安で販売した「にいがた和牛」の精肉パックは、閉店時間前に完売となる盛況ぶりでした。



にいがた和牛ブースでの抽選状況

## 全国畜産縦断 いきいきネットワーク大会に参加

全国の畜産に携わる女性で構成されている「全国畜産縦断いきいきネットワーク」〔事務局：（公社）中央畜産会、島田玲子会長（中魚沼郡津南町・養豚経営）〕の平成26年度大会が8月27日に東京都千代田区の日比谷コンベンションホールで開催されました。

今回は10周年という記念の年であり、会員の寸劇をはじめ、畜産後継者と消費者の女子で結成されたユニットのオンステージ等、様々なイベントが行われました。

10年の節目を迎えたことに対し、島田会長から歴代の会長に花束を贈呈され、参加者全員で結成当初からの歴史を振り返りました。

また、各県女性ネットワークの活動発表や会員全員による1分間スピーチが行われ、最後に下記のとおり大会宣言が行われました。

### 【平成26年度大会宣言】

- 1 TPPをはじめとした諸外国との畜産に関連する交渉にあたっては、我が国の畜産経営基盤の安定を旨とし、国政はもとより、畜産関係各機関が一体となって必要な対策を拡充するよう要請します。
- 2 口蹄疫をはじめとした悪性伝染病の侵入防止に全力を注ぐとともに、安全・安心な畜産物の生産供給につとめ、国産畜産物に対する信頼の維持に努めます。
- 3 東日本大震災からの復興の取組みを支援し、風評被害の払拭に努め、福島をはじめとした東北の畜産仲間の活動を支援します。
- 4 引きつづき畜産関連の生産情報の発信につとめ、国産畜産物への信頼の増進に努め、国産畜産物の消費拡大に努めます。
- 5 全国で活動する畜産に携わる女性が、全国畜産縦断いきいきネットワークに集い、活動の輪に加わるよう呼びかけます。以上  
（「全国畜産縦断いきいきネットワーク平成26年度大会資料」から抜粋）



（結成当初からの歴史を振り返った）



酪農経営

新潟市板山

井上 智啓



肉用牛経営

佐渡市立野

小崎 邦宏



## 『就農5年目に向けて』

私が酪農に従事してから、来年で節目の5年目となります。就農までの道のりや就農後に直面した様々な出来事を振り返り、決意を新たに経営改善に取り組んでいきたいと思えます。

子供の頃は、大きな乳牛が怖かったという記憶があり、牛舎にはほとんど足を運びませんでした。

その後、農業高校への入学をきっかけに、酪農の仕事内容を良く知らないまま、漠然と酪農をやろうと考えましたが、親の反対もあり、一旦、視野を広げるために新潟大学農学部へ進学しました。

しかし、そこで自分の生き方を定めるには至らないまま卒業を迎え、就職もままならず、先生の紹介もあって地域振興局で3年程、臨時職員として勤務しました。

局での仕事の中で、畜産以外の米、野菜、花き、園芸といった地元で営まれている農業に触れ、自分が生きている地域に対する理解が深まり、愛着が持てるようになりました。

そのため、自分も農業に従事して地元に貢献したいとの思いから平成21年に就農しました。

就農後は、第四胃変位や趾皮膚炎（PDD）などにより2年間で18頭の死産牛を出し、乳牛の飼養管理の難しさを痛感しました。

昨年からは畜産協会の経営指導を受けて、関係機関や飼料メーカーの助言、家畜検診車による血液検査結果をもとに飼料設計を変更し、分娩後の第四胃変位がなくなりました。また、関節炎の原因となり3年間、治療に苦労した趾皮膚炎（PDD）も治療と感染防止に向けてめどが付き、今年は無産牛が3頭に減りました。

また、畜産研究センターに勧められて試験的に栽培したスーダン型ソルガム「涼風」は嗜好性が良く、有効な自給飼料であることが確認できたので、来年は栽培面積を拡大し、良質な自給粗飼料を一年間を通して十分に給与できるようにしたいと考えています。

当面の目標は、酪農部門で日生産乳量700kgの確保と繁殖と牛部門の充実であり、後継者仲間と連携し、地域の酪農を支える一員として頑張っていきたいと思えます。

## 『リセットボタンの無い仕事』

専業農家（稲作と和牛繁殖）となって早いものでもう6年、それまでは東京と佐渡を行ったり来たり、IT業界で働くサラリーマンでした。親が歳を取り、週末の手伝いだけでは農業を続けることは難しいと判断し、会社を辞めて専業に…普通、ほとんどの方は農業を辞めて会社を選ぶと思いますが。

就農時、以前の会社の同僚から記念に何か欲しい物は？と聞かれ、『堆肥を取る為のフォークと角スコップ』（笑）と答える位、ほとんど手作業で掃除をしなければならぬ効率の悪い牛舎でした。

就農後、半年間は毎日が筋肉痛でしたが、少しずつ機械を導入し、牛舎を改修し、田んぼや牧草地を増やし、経営もなんとか人並みにまで持ってきた事ができました。

出産で初めて子牛を引っ張った時、無事に初乳を飲ませた時はえらく感動した事を今でも覚えています。牛の死にも立ち会い、何でだろう？と悔しくて一晩中眠れない事もありました。以前の会社勤めの時は、インターネットで調べればほとんどの問題は解決できましたが、この業界はそうもいきません。何せ相手は生き物です。そんな時いつも周りの方からのアドバイスで助けられています。特にお年寄りからの経験談は勉強になりますね。

最近、近所に『障害者就労支援施設』なるものができ、お手伝いをお願いできるようになりました。就職困難な若者が来ていて、戦力としては安定しないけれど、こちらの都合にあわせてお願いすることができるので、経費は多少掛かるもののかかり助かっています。只、たまに教える立場に立たされて戸惑っています。

今後の目標というよりも舵の切り方について、悩んでいることがあります。現在、親と二人で農業を行っていますが、このままでは今後一人で行う事となるでしょう。実際、周りには一人で農業を行っている方は沢山います。規模を少し縮小すればどうにかかなりそうだとは思っていますが、こうも思えます。施設の若者と共同することで規模の維持拡大の線は無いのだろうか？と…。

# 畜産安心ブランド生産農場だより

新発田市：波多野 義之・隆子

当農場は現在、私と妻の2人で、搾乳牛26頭、育成牛17頭を飼育しています。以前は両親が飼育管理していましたが、2年前に私がサラリーマンから転職、また今年の春からは妻が加わり、現在、両親にはアドバイザーとして牧場を支えてもらっています。

「良質なエサを十分に牛に与えることで、牛が健康に育ち、良質でおいしい牛乳が生産される」との両親の考えのもと、小さい頃から多少の手伝いをしていましたが、実際、職業として酪農に従事すると、前述の両親の考えを実行することがいかに大変か痛感させられました。ましてや酪農は、牛の繁殖、管理に関する生物学的なこと、搾乳や堆肥処理に関する機械操作等、収支や飼料コスト計算等の経営管理など、学ぶべき分野は多岐に渡ることから、全くの別業種であった妻など、私以上に大変な思いをしていると思います。

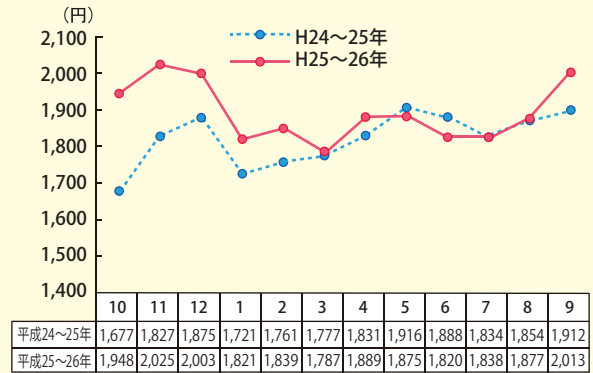
しかし、その思い以上に、2人で分娩補助し元気な子牛が生まれた時や、一番身近な消費者である自分の子供たちに、牛乳を飲んで「おいしい」と笑顔で喜んでもらえることは何物にも代え難く、この仕事を選んでよかったと感じています。

決して平坦な道ではありませんが、これからも健康な牛から恵まれるおいしい牛乳を消費者の方々に安心して飲んで頂けるよう妻と二人で歩いていけたらと考えています。

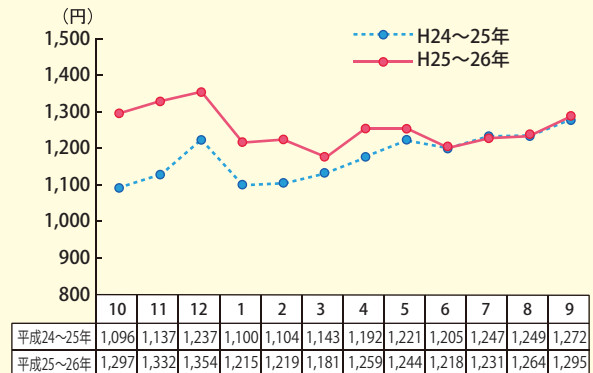


# 畜産物市況

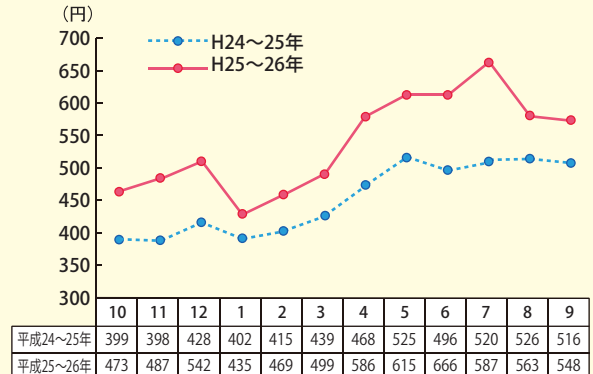
## 牛枝肉相場・和牛去勢A-4(東京市場)



## 牛枝肉相場・交雑種去勢B-3(東京市場)



## 豚枝肉相場・上(東京市場)



## 編集後記

季節は秋真っ盛りです。秋は「読書の秋」「芸術の秋」「スポーツの秋」などと呼ばれていますが、美味しい旬な食材が多くなる季節でもあり、何ととっても「食欲の秋」が一番ではないでしょうか。

秋に食欲が増すのは、日照時間が短くなり、脳内で生成される神経伝達物質のセロトニン分泌量が減少するため、たくさん食べたりよく眠ったりして、セロトニンを増やすことにより、精神の安定を図ろうとする身体の働きによるものと言われています。

10月7日に開催した県民公開講座では、講師の柴田先生からこのセロトニンが不足すると、認知症、不眠症、うつ病などにつながる危険性が紹介され、その対策として糖類のほか、乳製品、肉類に比較的多く含まれるトリプトファン(必須アミノ酸)を摂取することが大切であることを学びました。

秋になって食べる量が増え、太ってしまうことを心配される方も多いと思いますが、太陽の光を浴びてリズムカルな運動を行い、畜産物をバランス良く美味しく食べることが健康につながるものと確信できました。

(佐藤 記)